

令和元年度第1回 横浜市医療安全推進協議会 会議録

日時	令和元年5月21日(火) 18時～19時	
開催場所	関内駅前第2ビル3階 保健所会議室	
出席者 (五十音順)	阿部正隆、佐伯晴子、佐竹みゆき、関守麻紀子、高津茂樹、根上茂治、武関いと子、吉田勝明	
欠席者	なし	
開催形態	公開(一部非公開) 傍聴者 なし	
決定事項		
	<p><開会></p> <p>[事務局 富田部長]</p> <p>[事務局 古賀所長]</p> <p>[事務局 富田部長]</p> <p><議題(1)ア></p> <p>[根上会長]</p> <p>[事務局 橋本係長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[佐伯委員]</p> <p>[武関委員]</p> <p>[佐竹委員]</p> <p>[事務局 橋本係長]</p> <p>[佐竹委員]</p> <p>[関守委員]</p>	<p>開会の挨拶、会議公開、本協議会の趣旨等について説明。</p> <p>挨拶。</p> <p>根上会長に議事進行を依頼する。</p> <p>議題(1)アについて、事務局より説明を求める。</p> <p>議題(1)アについて説明。(P1～P13)</p> <p>議題(1)アについて質問を求める。</p> <p>(特になし)</p> <p>議題(1)イ「事例検討について」事務局より説明を求める。</p> <p><医科診療所関連事例></p> <p>【インフルエンザ予防接種を断られたことでの苦情】</p> <p>高齢者であれば、インフルエンザによる肺炎のリスクもある。かかりつけ医がワクチンのある所を調べて案内するようなことができなければ、ワクチン難民にはならなかった。この診療所も不親切な扱いとして責められることもなかった。</p> <p>確実に説明不足。大半の方は、かかりつけ医で予防接種の予約をとる。他の医療機関に新規でかかることはあまりない。相談者は、年齢で断られたという印象が強く残ってしまい、他の理由を言われていても、思い込みもあるのではないか。</p> <p>最初に診療所に問い合わせたのは患者本人か。</p> <p>そうである。</p> <p>家族からの話では事実確認が難しい。「言った、言わない」となり確認がとれない。診療所は説明したつもりでも、年齢のことが頭に残ってしまい、患者は感情的に家族に報告する。そうになると、やはり家族も同じ気持ちになる。最初から患者が納得できるよう説明することが大事。この事例を通して改めて感じた。</p> <p>本当に年齢を理由に断ったのではないかと思う。小児科でもワクチン不足が話題になっている。ワクチンが本当に不足しているのなら、子どもからとか、高齢者からとか、予防接種を推奨する国が優先順位等の基</p>

[吉田委員]	<p>準を示してもいいのではないか。基準に則って断られるのであれば、患者側も受け入れられる。</p> <p>大事なのは、診療所の回答の最後にある「今後は一言添えるようにします」ということ。優先順位については、過去新型インフルエンザ流行時に、医師を優先するという対応がなされたことはあった。70代前半はまだ若い年代、断る理由にはならない。説明に違いがあったのではないか。かかりつけ医で断られたということは、当時ワクチンが不足していたのだと思う。不足がないようにワクチンを作ること、このような事態に陥らない対応をしていくことが大事。</p>
[阿部委員]	<p>この時期はワクチンが不足していた。ただ、問屋に聞けば、入荷時期の目安は分かる。入荷時期や、ワクチンが余っている医療機関があれば紹介する等の対応を、主治医はできたのではないか。診療所の説明として「初診の方は接種後に何かあった際の対応が難しい」とあるが、誰でも初診にはなり得る。この説明はいかがなものかと思う。</p>
[高津副会長]	<p>診療所の断り方の問題と、早目の接種を促すPRが行き渡っていないと言える。健康であれば医者には行かないので、接種時期を逃してしまいがち。かかりつけ医を持ち、早期接種を促す市民向け広報が必要。</p>
[根上会長]	<p>自民党が失言防止マニュアルを作成したという話もある。今回の件も失言であったと思う。ただ失言は本音でもある。一昨年の10月～12月はもっとワクチンが不足していた。当時は、最初の頃にワクチンが何本か届いたが、途中で供給が止まった。結局12月後半まで、通常量が供給されなかった。結果的には、年明けインフルエンザが大流行した。医療機関側からすると、医療機関は供給されるワクチンを患者に接種することが仕事。ワクチンがあればできるが、なければできないということ。今回、年齢を聞いて断ったのは、おそらくその医療機関の内規にあったのではないかと思われる。ただそれは適切ではない。ワクチンがあれば対応する、なければできない、そのような対応が本来ではないか。行政でも、ワクチンの供給において突如不足する事態になった際は、そのことを市民にアナウンスする等の円滑な対応をお願いしたい。</p>
[高津副会長]	<p>ワクチン接種に年齢は重要なのか。</p>
[古賀所長]	<p>年齢は関係ない。</p>
[関守委員]	<p>相談者は若い人が優先と受け止めたのではないか。</p>
[古賀所長]	<p>以前、新型インフルエンザ流行時に、ワクチンの国民優先接種順位を決めたことはあった。しかし、今回の事態は当時の状況とは違う。65歳以上の方には公費負担による接種を促してはいるが、行政で優先順位を設けることはしていない。</p>
[根上会長]	<p>インフルエンザ脳症は非常に重篤な状態にもなり得る。インフルエンザが原因で亡くなる方のほとんどは高齢者であり、ワクチン接種を年齢で区切ることはできない。今回の事例については、患者への説明におい</p>

<p>[武関委員]</p>	<p>て配慮に欠けていた。</p> <p>この時期は、ちょうど高齢者宛てにインフルエンザワクチン接種の案内が配られる。対象期間内に行ったにも関わらず受けられないとなれば、その案内は何だったのかということにもなる。</p>
<p>[古賀所長]</p>	<p>思わぬ事態でワクチンが不足することはある。かかりつけ医とも相談の上、早い時期に受けられることをお勧めしたい。</p>
<p>[根上会長]</p>	<p>ワクチン不足により、予防接種が受けられないことで医療機関側に責任が問われることがないよう、行政側にも配慮して欲しい。</p>
<p><議題(1)イ></p>	<p><看護関連事例></p>
<p>[佐伯委員]</p>	<p>【看護師の対応に関する苦情】</p> <p>最初に名前の確認をしなかったことが、診療への不信になった。更に幾つかのことが重なり、ネガティブな印象を持ってしまった。治療の為の検査なのか、健康診断的なものなのか分からないが、もし治療の為であれば、検査を指示した医師に相談されることで別の展開もあったかもしれない。不信感から始まったことで、色んなことをネガティブに捉えられてしまった事例だと思う。</p>
<p>[武関委員]</p>	<p>対応の経過の中の、「名前の確認を全ての病院でやっているわけではない」との指摘は、腑に落ちない。名前の確認等は基本的なこととしてやってもらわないと困る。高齢者は番号で呼ばれても分からない、氏名や生年月日による確認が当然だと思っていた。</p>
<p>[関守委員]</p>	<p>患者は、この看護師の発言が嫌だったのではないか。何が一番不満に思われたのかを確認した方が良かった。発言に対してであれば、「失礼な発言でしたね」と共感し、苦情を伝えましょうかという提案もあった。受容的な受け答えが望ましい。</p>
<p>[吉田委員]</p>	<p>採血の後に腕を揉んでしまう患者は多い。予め患者に説明するべき。また、押さえた所が違った可能性もある。採血は静脈で行う。静脈は戻ってくる血管なので、注射の針を刺した所よりも上の方を押さえてしまうと出血する。押さえる場所をきちんと指導しておけば問題はなかった。患者のせいにするのではなく、医療者側の説明の問題として反省すべきこと。対応経過にある回答も適切ではなかった。「全ての病院が名前確認を行うよう指導していきます」とまで言うべきであった。</p> <p>日本医療機能評価機構で病院を回っていると、プライバシーへの配慮として、患者を番号で呼ぶ病院もある。それも味気ないとは思いますが、プライバシーという観点では、一概にどちらがいい悪いとも言えない。認知症の患者であったら、番号で呼んでも分からないし、名前でも難しいこともある。その場合は、看護師2名体制で確認するようにしている。そこまでの安全確保である。</p>
<p>[阿部委員]</p>	<p>コミュニケーション不足であったと思われる。薬剤師でもこのような失言はある。事務局の対応については、経過から相談者は一応落ち着い</p>

<p>[高津副会長]</p>	<p>たものと感じる。この対応で良かったのではないか。</p> <p>大きい病院では、採血時に患者を並ばせている。以前職員が誤って動脈に刺してしまい、出血が止まらなかったことがあった。その際、患者がいる中で職員は上司から叱責を受けていた。患者を前に適切な対応ではない。</p>
<p>[吉田委員]</p>	<p>その際、他の患者の採血（針を刺す場面）は見えていたか。</p>
<p>[高津副会長]</p>	<p>見えていた。</p>
<p>[吉田委員]</p>	<p>他の患者に見える状況になっていたのは問題である。今は厳しく指導している。</p>
<p>[根上会長]</p>	<p>患者の名前を確認していないということは、おそらくかかりつけ医としての関係性がない、ある程度規模の大きい病院と推察する。このような事態を把握しながら、放置されることは、医療安全推進協議会の委員としては不満である。横浜市行政として、この事態を敏感に受け止め、是正を図るべく指導権限を行使して欲しい。対応経過についても、病院へ直接苦情を伝えるなどの対応が望ましい。このような病院を容認しないで欲しい。</p>
<p>[佐竹委員]</p>	<p>患者は、本来の検査・治療の目的が達成されず辛い思いをされた。その責任は重い。大規模の病院になると、検査技師も採血を行っている。名前の確認等は当然行われるものだと思うが、今回の事例は、看護師個人の資質、プロ意識の低さを感じる。また、その苦情を受けた看護主任の対応も、余計患者の不安を煽るものになってしまった。患者の意見や苦情を受け止め、院内で共有・周知することが必要。そうしなければ医療安全は保てない、事故も減らない。対応経過については、大きな病院であれば患者相談窓口が設置されているので、その窓口を案内されても良かった。窓口では苦情や訴えを受け止め、然るべき部署、医療安全の会議等で取り上げることで管理者も把握する。小規模の病院であっても患者の訴えを大事にしていかなないと、本来の目的である治療が達成されず患者に辛い思いをさせてしまう。また、言葉だけでなく、看護師の態度や表情にも患者は敏感。確かに看護師の業務が多忙となっている実情も分かる。昨今、働き方改革で外来の看護師が減らされている。国は医師や事務職を多く配置するよう進めており、看護師は現場から減らされている。</p>
<p>[根上会長]</p>	<p>他意見を求める (意見なし)</p>
<p>[根上会長]</p>	<p>事例報告、事例検討については以上。</p>
<p>[事務局 佐藤係長]</p>	<p>議題(2)「平成30年度臨時対応案件について」事務局より説明を求める。</p>
<p>[事務局 佐藤係長]</p>	<p>「平成30年度臨時対応案件について」報告 (非開示)</p>

	<p>[根上会長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[事務局 橋本係長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[佐竹委員]</p> <p>[事務局 橋本係長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[事務局 橋本係長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[根上会長]</p> <p>[事務局 富田部長]</p>	<p>議題（２）について質問を求める。 （非開示） 他意見を求める。 （意見なし）</p> <p>議題（３）について、事務局より説明を求める。 議題（３）について説明。（P14～P15） 議題（３）について、意見を求める。 来年２月の研修会講師は、横浜市立大学附属市民総合医療センター安全管理室の中村先生に依頼し了承いただいた。 了解した。 他意見を求める。 （意見なし）</p> <p>議題（４）について、事務局より説明を求める。 議題（４）について説明。（P16） 議題（４）について、意見を求める。 （意見なし）</p> <p>議題（５）その他について、意見を求める。 （意見なし）</p> <p>他意見がなければ進行を事務局へ。 次回の日程は、９月になるが、日程については調整の上別途連絡する。 （異議なし）</p>
<p>資料 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 平成 30 年度医療安全相談窓口の相談実績（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日） （資料 1）</p> <p>(2) 平成 30 年度医療安全課臨時対応案件について</p> <p>(3) 令和元年度第 1 回医療安全研修会について（資料 2-1）</p> <p>(4) 令和元年度医療安全研修会について（資料 2-2）</p> <p>(5) 令和元年度その他の取組について（資料 3）</p> <p>2 特記事項</p> <p>次回日程は別途調整の上連絡する。</p>	